

「設計を考える」 刊行にあたって

近年は製・商品について、使用者、消費者の要求が非常に厳しくなっています。同時に市場での価格競争が激しく、開発のスピードも要求されています。その結果が品質上での問題や、さらに設計者が絶対犯してはならない安全性に疑問のあるものや法令違反などが続出しています。現実には、自動車のリコールの届け出、薬品や食品などの消費者用製品のリコールに関するメーカーや販売元の謹告など新聞に出ない日はありません。さらに、食肉や農産物、水産物などの偽装事件を含めると数え切れないくらい多くなっています。このような一次産品は直接設計とは関係ないと思われませんが、商品企画段階の作業は広義に解釈すれば設計行為そのものなのです。

商品企画、設計開発段階は製品の品質・原価・生産性の大半を決定づけるのです。設計者のひとりよがりではなく、常に冷静に幅広い使用者、顧客の身になった配慮が大切です。

往々にして、設計者は現実の作業に没頭してしまうと、新しい材料・部品、先進の技術を取り入れることや同業他社のものより機能的、価格的にも先んずることへの意欲で頭の中が一杯でとてもこの冊子にとり上げたようなことには、なかなか配慮が及ばないのが現実であろうと思われます。

最終的に設計が完了し、出図の前に、“法令は大丈夫か” “安全性はどうか” “どんな使い方をしても問題はないか” などの確にチェックすることがリーダーや責任者の立場の方々の責任であり、これが重要なのです。本冊子はそのような際に何かのお役に立てばと思いとめました。設計技術周辺のことについて見直すヒントになれば執筆者としても幸甚です。

この冊子は第1章～第9章に分かれており、その概要は下記の通りです。

- 第1章 製品の安全性
- 第2章 法令の順守
- 第3章 P L（製造物責任）対策
- 第4章 信頼性について
- 第5章 設計に際して考慮すべき事項
- 第6章 C A Dについて
- 第7章 板金設計
- 第8章 プラスチック成形品の設計
- 第9章 機械加工部品の設計

この冊子をテキストとして設計技術者の勉強会や輪講などに利用してもらえばよいと思っています。なお、A T A Cでは、それぞれの企業の技術社員の勉強会、研修会などに講師を派遣することも承りますので、ご遠慮なくご相談ください。

（A T A C 藪野記）

